

高い技能と表現力の向上を図るための指導の実践

～確かな知識を身につけ、豊かに響きあう合唱づくり～

(市音楽科部会研究テーマ：幅広い表現及び鑑賞の活動を通して生徒の音楽性を高める)

岩 撫 千 鶴

1 はじめに

幼少から音楽に触れ、気がつくとも教師を志すようになっていた高校時代。振り返ると、小中学校での音楽教育と豊かな情操教育という環境に恵まれていたように思います。連合音楽祭など市を上げての発表会、小学校への訪問コンサート、近隣の支援施設での文化交流演奏…新設校として開校した中学校はそれこそ文武両道で、学区の学習院とも言われる学校に大きく変化していきました。その中でもひととき力を漲らせていた吹奏楽部に所属、部員は3学年揃って100名を越え、音楽室に入りきらないほどの人、人、人…しかしどの学年どのパートの部員も、性格、演奏技術が皆わかる程濃い時間を共有し、今でも多くの思い出を語り合える間柄でいます。

とある日、それは中学1年の文化祭でしたが、合唱部の発表が行われるので体育館に赴きました。ステージには女声合唱のメンバーがずらりと並び、いよいよ発表…その歌声を聴き、私は今までに感じたことのない程の衝撃を受けました。歌声の響き、ハーモニー、音楽のまとまり…あらゆるものが超越し、激しく心に揺さぶりをかけてくるのです。そしてステージ上のすべての部員がなんと泣きながら歌っている！これほどの演奏を誰が見たことがあるでしょうか。その無二の演奏を聴いた人々は魂を鷲掴みにされ、語り継がれる伝説の演奏となりました。間もなく私も含め多くの生徒が部に参加し、120人を越える大女声合唱部の歴史が始まっていったのです。当時、授業では、バッハ、ヘンデル、モーツァルトなど音楽史をなぞるように古典的な作品から順序よく学び、部活動では合唱曲をきちんと取組み、かつ今時の流行の曲も面白い…聴き手歌手の両面をそぐうように構成された活動に、中学時代、本当に多くのことを学びました。

器楽や声楽など幅広い音楽のジャンルの中で、人の声というものが「音楽の源である」ことを強く感じ、果てのない世界をどれほど追求できるか、長年取り組んできました。

少ない授業時数の中、生徒の持つ感性をより豊かにし、「技能と表現力の向上を目指す合唱づくり」をテーマに、心に響く音楽を求める本校での実践をまとめました。

2 生徒の現状

本校は、3つの小学校からの入学で、近年はひと学年6クラス規模、約700名ほどの生徒数の学校です。男女比は20名ずつがほとんどで、合唱のバランスとしては大変よい状態です。

小学校での活動では、器楽合奏も盛んに取り組まれ、リコーダーを含め主なラテン楽器も扱う学校もあるので、子どもたちは豊かに音楽を体感しています。また、音楽朝会や音楽集会などを学校として企画し、月ごとや行事での異学年交流という機会を作って、児童の励みになるよう取り組まれています。歌唱面では、先生が創作した歌を歌ったり、著名な歌手やグループが歌う曲を合唱で歌ったりと、幅広い面から曲を取り入れています。中には中学で歌う曲（異なる編曲のもの）を扱ったりもし、自ずと小中連携となっていることも少なくありません。

入学した後、歌うこと、楽器を演奏すること、音楽を聴くことのどれが好きかをアンケートしますが、多くの生徒が歌うことが一番好きであると答えます。このことは、小学校で心を穏やかに、かつ良い人間関係が構築され、自他を認め合える環境が整った中で、子どもたちが伸びやかに活動してきたことを示すものと考えます。ただ、ピアノを習っている生徒が極端に少なく、弾ける10人前後の生徒の技能も、ゆっくり簡単な曲がこなせる程度の生徒がほとんどです。また中学入学を機に、習っていたピアノをやめてしまう生徒もおり、文化祭の合唱コンクールに取り組んでいく過程では、相当な個人練習と指導を必要とします。

入学間もない時期、歌唱や合唱では、声の質、発声、音程などの技能が個々まちまちで、その子その子とその歌に合わせて、歌いやすい歌い方を当てはめて歌唱しているような様子が窺えます。また、ピンと張ったストレートな声の出し方、音程が不安定だったり自分でオクターブ下げて歌唱するなど、模索しながら歌っている状態が見て取れます。

音を捉える点では、斉唱（校歌など）の単旋律はすぐに捉えて、2～3回でほぼ歌えるようになりますが、合唱になるとアルトも男声もほぼつられ、音程が定まらないことがほとんどです。

以上の点を考えていくと、実はこれらはとても自然で当たり前のことであると思われまします。なぜなら小学校の差異、多くの生徒が「未経験」な状態であるからです。小学校での経験値が各々まちまちなことを敢えてプラスにし、個々を更に生かすこと、伸ばすことを皆で取り組んでいくことが、中学校での大きな成長になるということに理解を向けます。

3 各学年の取組（3年間の実践）

本校は2名の教員で授業を行っており、1つの学年を3年間持ち上げることが近年なく、指導内容は教科部会を適宜持ち、一環した流れで実技指導を行っています。

- 1年次 ①姿勢
 - ②呼吸法：腹筋や背筋を意識するアクティブな活動
丹田（たんでん）や横隔膜を意識するブレスコントロール
 - ③口の形
 - ④のどを広げる・口の中の形：喉の奥を広げて息や声の通り道作り
- 2年次 ①音域の拡大
 - ②声部に即した発声・発音
 - 〔女声〕チェンジヴォイスの徹底・子音を意識した発音での歌唱
(ソプラノ)頭声発声による響きの拡大
(アルト) 胸声発声での柔らかみある声作り
 - 〔男声〕声質・響きのまとまり・丁寧になめらかな発音
 - ③3部合唱の取組（ハーモニー作りや曲の構成・強弱などを表現）
- 3年次 ①声量の増幅と全体のバランス作り
 - ②曲想にふさわしい発音での歌唱・音色（声色）の工夫
 - ③4部合唱の取組（ハーモニー作り・アカペラでピッチを感じながら）

【1年次】

(1) 導入から基礎練習：1学期

4月 雰囲気明るく楽しくしながら、「個」を観ること、「個」の良さを見つけて伝えることをできるだけたくさん行います。入学後の授業では、まず「校歌」を扱いますが、本校の明るく快活なテンポの校歌では、きびきびとした発音をひとつテーマにし、練習を始めていきます。1年生らしく生き生きと歌うことで難しさを感じることはないようなスタートです。次に、速さを変えて、ゆっくりした速さで曲を歌っていきますが、ひと息の長さが持たず、1フレーズの途中から声がやせていく状態の歌になります。多くの曲を歌唱していくには、声の源である「息の量と使い方」が大切であることに気づかせます。

1年生ではこの段階で「姿勢」「呼吸法（腹式呼吸）」「口の形」「のどを開く・口の中の形」を意識した練習に入ります。

①姿勢 ～格好良く美しく～

足は肩幅、手は横に自然に、膝・腿・お尻を軽く引き締め、顎を引き、首筋を伸ばす、目線は遠くに、重心は前に、胸を張り、格好良い姿勢・美しい姿勢を意識させる。

②呼吸法（腹式呼吸）～ブレスコントロール～

床に寝ころび、お腹に手を当て、手が上下する動きを感じながら繰り返し呼吸する。慣れてきたら無声音（S uー）でロングトーンを行う。秒を決めたり長くできるかコンテスト形式で行うと、雰囲気や和らぎ楽しみながらできる。また、前傾姿勢になり背中に手を当てた状態で呼吸し、背面が広がるように深くブレスする練習を行う。



背中に手を当て深い呼吸

③口の形 ～指を使って～

母音アとオを使って丸く広く開くことを意識させる。親指と人差し指で丸く輪を作り（ピンポン球）場合により、指2～3本を縦に口に入れたり、耳の穴の下に両手の人差し指を当てて、顎を開いたときに指先が骨の窪みに入るような動きで、顎が開いていく感覚を体感させる。また、頬に指を当て、指が口の中の歯に当たらないよう歯を開いていくことも行ったりする。（飴玉法）声の出口を開くことで3倍音量がアップする。



口の形・中の広さ（飴玉法）

④のどを開く・口の中の形 ～あくび体操～

口の中を広く深くし、響きを増幅させることをねらう。卵を含んだような口の中の広さ、あくびを我慢するような仕草、のどをふくらませるような仕草など、思いつくまま数多く練習する。また、最終的にのどを開き、声の通り道を作り、柔らかく響く声を作るため、「あくび」を数回させる。

以上の練習を毎授業必ず行い、身体・発声への意識を常に持つよう意識付けします。

5月 本格的に合唱の取組に入るために、中学校の行事を説明します。2学期に行う文化祭合唱コンクールのDVDを鑑賞し、選曲・練習・発表の過程をレクチャーします。

学年が上がる毎に、声質や表現の変化を感じ、多くの生徒から感動の声が上がります。そして学年合唱曲「COSMOS」（ミマス作曲：混声3部合唱）の取組に移ります。

女子のパート決めは基本生徒自身の希望を取りますが、個々の声を聞き声質でパートを指示し、人数に偏りがないように決めます。男子は変声前の生徒を「エンジェル」変声にかかると生徒を「ダンディー」と呼び、同じように個人個人の声を聞き、決めます。

パート練習は、音楽室と他2つの部屋をパートに振り分け、リーダーに練習方法や内容を指示し、CDプレイヤーを使い生徒達で取り組ませます。時間や回数でローテーションをし、音楽室では練習成果の評価や次への課題を伝えるよう、教師がついて練習を見ます。練習の進み具合で音楽室に集合し、1パートずつ音リズムの確認、2パートの「合わせ」、3パートの「合わせ」を行い、最終的に7月に学年練習ができるように進めていきます。

6月 学校の行事組織から「合唱委員会」が立ち上がります。各クラス男女1名ずつで1年間組織的に活動する委員となります。合唱コンクールでは、各クラス1曲、合唱曲を発表するので、曲決めのため選曲を行います。10曲程度の候補曲（音楽科選考）を聴き、歌いたい曲やクラスにふさわしい曲を1人ひとり投票していきます。上位の曲を数曲委員会に持ち寄り、調整や籤を引いて7月上旬に曲を決定します。それと平行して、指揮者と伴奏者の立候補を募り、夏休みには候補者のレッスンをを行います。

7月 総合の時間2時間を「学年音楽」とし、学年パート練習（可能であれば体育館で合わせの練習も）を行う。（運営は学年教師の文化祭合唱担当・合唱委員会の生徒による）

（2）文化祭合唱コンクールに向けて：2学期

9月 約3回の授業で、クラス合唱曲と全校合唱曲「涙をこえて」（1年生ではソプラノと男声の2パート）の音取り・合わせをしていきます。

10月 約3回の授業で、曲を合わせ仕上げていきます。学年練習では学年合唱曲の取組で①入退場②歌い込み③前日練習を、またクラス合唱曲の取組では、10月半ばにリハーサルを行い、当日の順で発表し生徒達も全員採点、委員が集計し当日に向けた取組課題を明確化していきます。学校の体制として、兄弟学級（1～3年の3クラス縦割り組織）で行事を取り組むので、合唱交換会のような時間を数回取ります。学年全体練習は合唱コンクールの週に1回のみ。合唱コンクールは市のホールで例年10月末に行われます。

11月 文化祭を終えて振り返りをし、少人数での発表を実技課題とする「COSMOS班発表」を行います。アンサンブルを聞くことにより、個々の力の向上、声質・発声・表現など他者から感じ取り気づくことで、さらに感性が広がります。

12月 卒業式の在校生合唱曲「Let's search for Tomorrow」（混声3部合唱）の練習に入ります。音取りをしながら、「豊かに歌うこと」をテーマに、身体を使ったブレス、発声発音を整えていきます。

(3) 1年間のまとめ さらなるものを目指して：3学期

1月 新入生1日入学での発表曲「COSMOS」の再練習をします。この頃からクラス内のパートの声質・響きの量・バランスを整えることに意識を持たせます。既習しているので、よりフレーズを感じ、言葉を意識した表現やダイナミックさを表せる歌唱を課題に取り組みます。

2月 学年練習を2回行い、新入生1日入学での発表を行います。この時期、身体も一回り大きくなり、体力筋力が着いたことで響きに厚みが出て大人っぽい声質にぐっとなります。当初より音感も鋭くなるので、敢えて無伴奏（アカペラ）での練習を行います。部分部分で綺麗なハーモニーが生まれると、子どもたちはちゃんと感じ取り、口々に「いい感じ」と表現します。

3月 卒業式の練習で2年生との在校生練習が行われます。授業でも補的に扱いますが、2月の取組をさらに深く扱い、「ストップザミュージック」として、特化した部分でハーモニー作りの練習をします。C・G・Fの和音がわかりやすく、子どもの耳に心地よいようでした。ここでハーモニーが生まれる条件を簡単に説明し、2年生での課題であることを明確化しておきます。

【2年次】

(1) 声づくり：1学期

身体から発する声・響きづくりをテーマに、音域を広げ、なめらかにかつエネルギッシュに歌唱します。選曲としては、学年合唱がゆったりと叙情的な曲であるので、テンポの速い曲や躍動感ある曲、たとえば「青葉の歌」など、音・リズム・曲想がわかりやすく、大変ダイナミックに歌える曲は、本校の気質にあって、子どもたちは好んで歌います。そして学年合唱曲「春に」の音取りを始めます。

6月、7月には、クラス合唱曲の選曲を行います。ここまでの取り組みで、自分たちのクラスがどんな持ち味があるのか、を生徒たち自身が掴み、クラスの力と曲がマッチしたものを選曲できればベストです。2年生での曲は、1年生の3倍難しいもの、と敢えて伝えていきます。音域が広がり、曲の構成や強弱など表現が幅広くなるものが多いので、歌唱技術を高め、詩を表現する心情を豊かに育みます。同時に指揮法を扱い、変拍子やフェルマータなどの特別な手つきを簡単に指導します。ただピアノ伴奏の生徒は「弾きたい」を「弾ける」と無理をし、候補に挙がった曲の伴奏を「できます」と言うことが多く、本番直前10月まで苦労することが多分にあります。このことは本校の大きな課題でもある

ので、夏休み～9月にかけて、CDを聞かせたり練習をサポートしたりし、レッスンを行います。

(2) 文化祭合唱コンクールに向けて

9月末～10月、学年・学級での取り組みが始まります。9月の約3回の授業で、音取りと合わせを繰り返し行い、個の力をできるだけ高めます。速い曲・ffなどのかなりの強さがある曲・逆にゆっくりでピッチをきちんとはめてハーモニーを整える曲など、リーダーや指揮伴奏者に曲をしっかり表現できているか、音楽面をきちんと判断できるように働きかけます。授業では各クラス練習のポイントや課題を与えたり、またそれがきちんと身につけているか確かめていきます。学年リハーサルの録音音源を授業で聞かせ、成果がみられるところをあげ、また、音程やリズムが不安定なところ、歌詞が不明確なところ、強弱などもっと表現をした方がよいところなど、課題を明確にし、次への練習につなげていきます。歌う時間の確保のため、端的に子どもたちからあげさせ、効率よく進めます。

(3) 卒業式に向けた取り組み ～最上級生へのステップ～

1月～2月は卒業式の在校生合唱曲「Let's search for Tomorrow」(混声3部合唱)をさらい直します。「声質を良くし、響く声づくり」「声量のバランスを整え、ハーモニーを作ること」をテーマに、既習した合唱曲を「ストップ ザ ミュージック」で無伴奏(アカペラ)の練習をできるだけ多く取り組みます。ハーモニーができるよう、ポイントを捉えさせる練習を繰り返し行います。声質・響き・バランス・ピッチを正確に歌唱することが3年生で必要な技術であり、この時期に高い意識で取り組み、成果を上げることで最上級生の良いスタートを切ることにつながる、と働きかけます。生徒たちは、ハーモニーの状態を聞き取り、きちんとはまっているか、まだそうでないかを判断できるようになります。心地よく歌声がまとまる感じを体感できると、とてもいい表情で歌唱していきます。

【3年次】

(1) 太く厚みのある声を目指し、表現の幅を広げる：1学期

4月 個々の声を馴染ませ丸い響きを作ることと、各パートにふさわしい声を作るため、できるだけ個々の声を聞き取りアドバイスします。声を響かせる(当てる)ポイントと、身体を開いて豊かに息を通していく発声を中心に取り組みます。最上級生という高い意識を持たせながら、1曲の中で音楽の要素が多く含まれた「サンタルチア」「花の季節」等歌唱していきます。多くの生徒が三拍子に乗って朗らかに歌える「サンタルチア」は、音取り後、すぐに原語(イタリア語)で歌い始め、フェルマータを高らかに熱唱し、テノー

ル歌手になりきって歌う生徒が多数いました。また、「花の季節」では、静かでゆっくりとした2拍子から、速さが上がり accel. (アツチェランド) する独特な曲想に感嘆し、飽きることなく歌い続ける生徒が多数いました。敢えて取り組ませた曲ですが、生徒の感想では、「こんな風な曲が世の中にあるなんて」「世界が広がった」「曲が変化していくことがこんなに面白いものとは」「衝撃的」「もっといろいろな曲を歌ったり演奏したい」というものがほとんどでした。

5月～7月 学年合唱曲「大地讃頌」（混声4部合唱）の取り組みを始め、パート決めを行います。アルトとバスの人数を若干多くし、低音中音に厚みを持たせる構成にします。パート決めは女子は生徒たち自身で行い、男子は数人で歌わせ、音域チェックをしていきます。同時に発声や声質・響きなどについてもアドバイスし、よりよい声づくりに導きます。2年生から3年生は5倍難しい曲になる、ということを伝え、生徒たち自らが一丸となって全力で取り組むことが、まず第一に必要な力であることを意識付けしていきます。練習は音取り確認を進めながら、できるだけ同声2パートの合わせをしていきます。よりよい声で歌い、正確に音取りすることを早く行えるよう、意欲を高め、行動力を上げるよう、パートで競い合わせます。また、その成果をクラス合唱の選曲に生かし、持ち味を生かせる曲、最上級生らしくより高いものを目指す課題のある曲を勧めます。

（2）最後の合唱コンクールに向けて：2学期

9月の授業では、クラス合唱曲の音取り、合わせを進めます。響きの統一感と曲想を併せて意識した練習に取り組み、10月上旬には指揮伴奏を含め、合わせていきます。伴奏が完成していれば不安なく流れに乗っていただけるのですが、なかなかそうはいきません。ここで無伴奏で取り組んだ成果が現れます。歌がすべてであることをしっかりと心に置き、伴奏者が安心して上達するようサポートします。

10月のリハーサルを録画録音したものを学級や授業で視聴し、前日までの「勝利の方程式メニュー」を出します。合唱委員の練習計画・練習内容に、そのメニューを取り入れ、ひとつひとつの要素を丁寧にまとめていきます。2年生で培った音楽性と機動力、そこに最上級生としての最後のコンクールに向けたエネルギーが加わるのですから、子どもたちは「我らが1番」と心を注いで練習に励みます。音楽科からはリハーサル後に発音・声質・曲想・バランス・・・ピッチ・ハーモニーなどの指示を書き込んだ「最強の楽譜、これができたらプロになれる」という楽譜を渡します。生徒たちはその注釈を全員の楽譜に書き込んだり、模造紙に転記したものを作ったりして、本番までの練習課題にしていきます。

どのクラスも切磋琢磨し、よく励まし合いよく練習した3年生でした。本番は保護者か

ら「CDみたい」「どのクラスも金賞ね」「どこのクラスが最優秀賞になるか分からないほど」という声が聞かれました。本番を終えた生徒たちは賞にかかわらず皆やりきった満足感を得ていました。

11月12月には、卒業に向けた練習を行います。卒業式では合唱曲「旅立ちの日に」を歌いますが、そこへの心情を高めていくために教師の創作曲「心の友」と「時を越えて」を取り組みました。3年間の集大成としてですが、「時を越えて」は教科書が変わった後、本校では歌ったことがない曲でした。生徒たちに「うちの学校で初めて取り組む曲」、と伝えると、その歌をいい歌声で締めくくろうと、とても前向きな雰囲気練習しました。

心の友

～ Forever Friends ～ lyric & compo. by Chiduru Iwanade

1. 目を閉じれば よみがえる 木漏れ日^も ぬくもり 友の顔
虹のバトン^{ゆず}を譲り受け みんなで 走って 来たけれど
心に描いた 夢追い求めて それぞれに 歩き出す 今 未来へ
どんな時も この歌を 心の友に for My Friends
2. 耳を澄ませば^す 聞こえてくる ざわめき ため息 友の声
いつの日にかこの場所で みんなで また会う その時まで
出逢^あって過ごした いくつもの季節 この思い胸に抱き 今 旅立つ
どんな時も この歌を 心の友に for My Friends

忘れない ここで 輝いた日々 忘れない みんな 優しい笑顔
明日への 扉開き 歩き出す 果てしない夢に 向かって

どんな時も この歌を 心の友に forever Friends



(3) 卒業に向けて：3学期

1月には研究授業を行いました。受験期の真っ最中、なかなかモチベーションが上がらないことも多い時期ですが、当該学級は学年一という自負を持ち、深みのあるいいバランスで歌唱できる力をつけました。その意識が学年全体にも及び、卒業前の学年練習パート練習や朝練習など、心を尽くして取り組みました。残念ながら「お別れ音楽会」を行うことはできませんでしたが、定年でご退職する校長先生に向け、卒業式前日の集会で感謝の気持ちを込めた「旅立ちの日に」を学年全員で贈りました。

卒業式の合唱では在校生も卒業生も豊かな合唱を歌うことができました。会場の体育館の隅々に、透き通った柔らかい声が響き渡り、1年から3年までの全員の声がブレンドされた清らかな合唱となりました。これほどまでに学校全体の声質がほどよく混ざり合った声は今までにないものでした。

3. 成果と課題

この取組を通して、子どもの技能の差異がある中でも、系統立った計画を立て生徒を導いていくことで、個や集団が変化し成長していくことを改めて認識できました。技能と表現に磨きがかかり、子ども自身がより良いものや味わい深いものをさらに目指していこうとするその心を支えていくことで、子どもたち自らの心のこもった演奏に繋がるのがとてもよくわかりました。この子どもたちがもたらす変化は本校では年々高いものになり、これから何を課題にどこを目指していくか、とても難しい状況に入ったように思います。今回の取組では、拡大楽譜を使用したり、タブレットから楽譜や撮影した活動の様子をスクリーンに投影した授業を行いました。機器を効果的に扱うことで課題やめあてなどが明確化でき、実技活動にいい形をもたらすことができたように思います。子どもたちからは、「自分の成長、人間の力の素晴らしさを感じることができた」「さらに表現力を高めたい」などの声が上がりました。また、今後の課題として、個の力をより高めるための実技の時間の確保、幅広い音楽に触れ、その良さや特質を感じ取らせる授業、表現力を高める技能の力を高めるための発声指導など、さらなる研究と工夫が必要です。

【授業で使った情報機器・教室環境・活動の様子】



プロジェクターとスクリーン



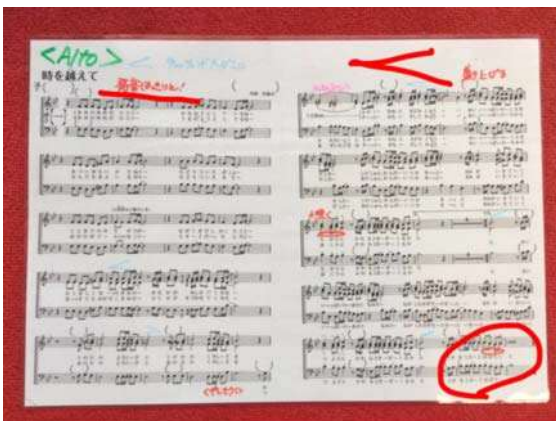
拡大楽譜とホワイトボード



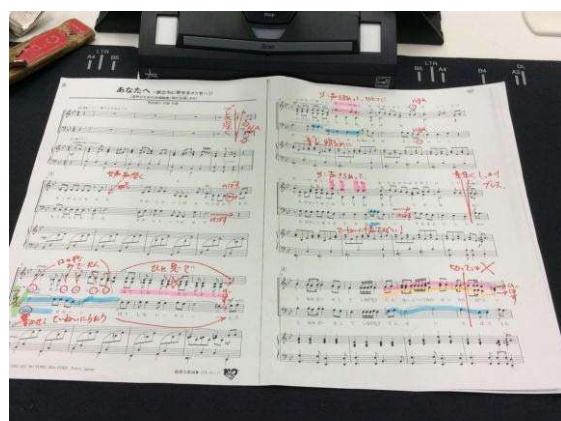
パート練習で曲の分析



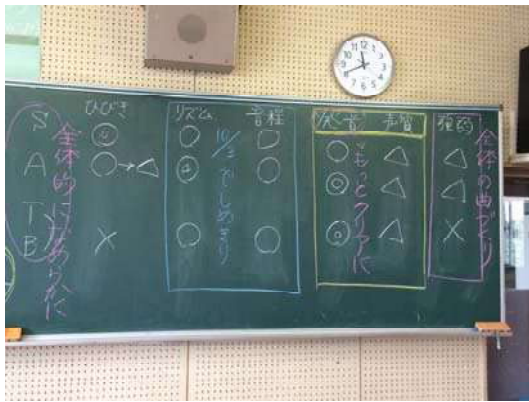
投影用シートを使って



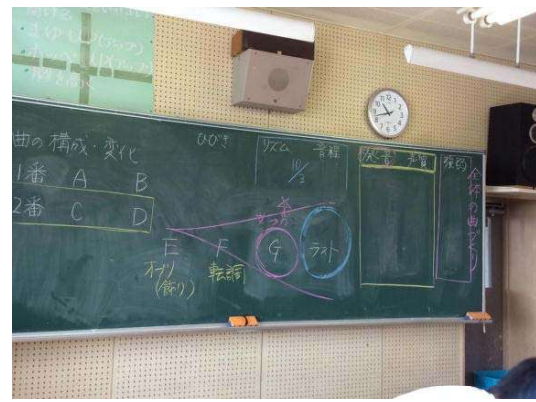
シートマーキング



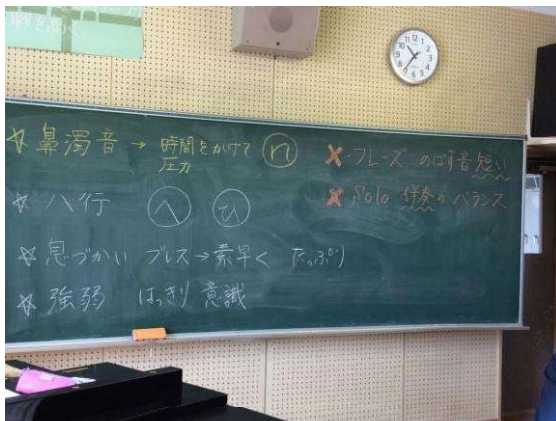
投影用の楽譜



合唱パート練習の評価



合唱曲 曲想のイメージ作り



合唱曲 曲の仕上げに向けて



合わせの練習風景

4 おわりに

「人が環境を作り、環境が人を作る」ということをよく言われます。本校も決して平穏無事に過ぎてきたわけではありません。多くの先生、子ども、保護者や地域の方がよりよい学校づくりを目指し、携わってきた結果、生徒が生き生きと活動できる心を持ち、日々を過ごしてきたのです。「きちんとやればよいものが生まれる」ということを、生徒たち自身が理解してきている今、その段階を経て生徒の質を見極めレールを敷いていくことで、子どもたちは自らの知恵と工夫を持って、さらに進んで活動をしていきます。

上級生が正しくきちんとすることを「美しい」「素晴らしい」ことであると位置づけ、3年生に追いつけ追い越せと後輩が頑張ることと、越せないほどの山・壁を作り上げようとする3年生の凛とした風格が、普遍的なものを作っていくのではないかと思います。

近年、指導要領が変わり、音楽の授業時数も減っている中、多くの先生、とりわけ若い先生方が「合唱指導に悩んでいる」とおっしゃっています。毎日の激務に、ゆとりを持ち、心穏やかに生徒と触れることが厳しい現状かもしれません。しかし、生徒一人ひとりの「世界にひとつしかない自分の声」を大切に意識させること、さらに生徒の質を捉え、個への丁寧な指導を重ねていくことで、個・集団においても生涯無二の素晴らしいものがもたらされます。学びの環境を整え、伸びやかに高みを目指す子どもたちの心に寄り添い、柔らかく健やかな成長を支えていきたいと思えます。

つたない取り組みではありますが、この取り組みが、各校の合唱づくり、学校づくりに生かしていただけましたら幸いです。